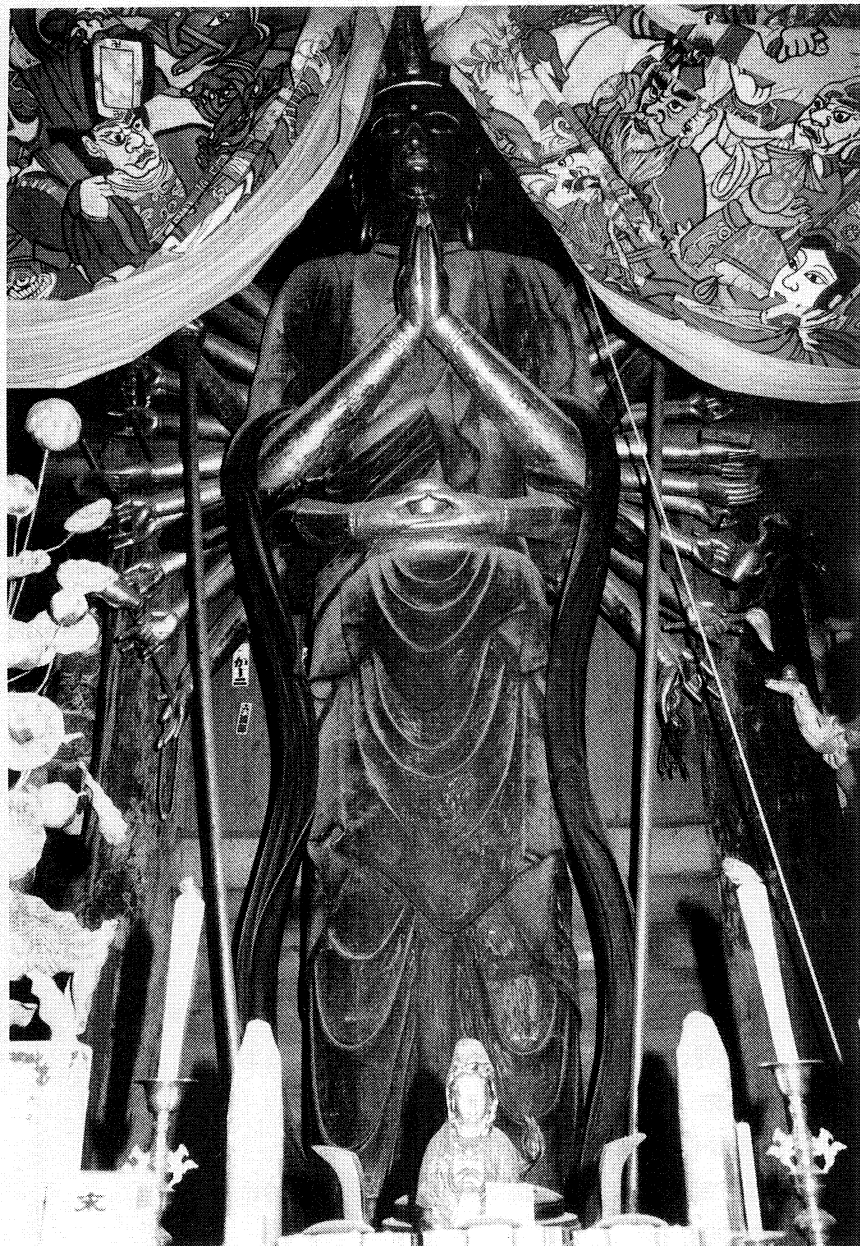


重要文化財

木造千手観音立像

一 軀



この仏像を安置する観音堂（重要文化財）は、鎌倉初期の建久年間に建立されたと伝えられる。その後永祿年間に修理したが、慶長十六年の大地震で倒壊し大修理をおこなった。木割雄大な和様建築で、豪健な趣きがあり、鎌倉時代の建築の特色を残している。

本尊千手観音立像は、像高八メートル五〇をこす、一木彫成の大像である。両肩先を接ぎ合わせ、正面の合掌手、宝鉢手など計四〇本の手は別材でつくられている。像は立木に彫つたような感じを与える優作で、通称「立木観音」といわれている。

所在地 会津坂下町大字

塔寺字上ノ山

所有者 恵隆寺